

1. 調査報告概要表

作成日 2009年6月2日

【評価実施概要】

事業所番号	1571600319
法人名	社会福祉法人 上越あたご福祉会
事業所名	グループホーム新井
所在地 (電話番号)	新潟県 妙高市 高柳 2丁目6番2号 (電話) 0255-70-6517
評価機関名	エム・エム・シー総合コンサルティング 株式会社
所在地	新潟県 上越市 富岡 3446
訪問調査日	平成21年5月20日

【情報提供票より】(平成21年4月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.8 人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階	~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,800 円	その他の経費(月額)	約 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050円		

(4)利用者の概要(平成21年4月10日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	78歳	最高	93歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	けいなん総合病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム新井は、新興住宅地の一角に同一法人の経営するケアハウス・デイサービスセンター・ヘルプステーションの複合施設に隣接しています。木造平屋建ての建物は木のぬくもりが感じられ、気軽に立ち寄りやすい雰囲気です。リビングには利用者等の手作りの作品が展示され、好みのものに囲まれて居心地よく過ごせる空間となっています。市街地にあります交通量も少なく、神社や公園がすぐ隣にあり日常的に散歩を楽しめる環境であり、施設には畑もあり、春から秋は利用者や職員と毎日草取りや農作業を楽しんでおり、季節の野菜が毎日食卓にあがっています。職員は、利用者が『人』としてその人らしく生きることを大切に、利用者が穏やかに暮らせるよう支援しています。地域との積極的な交流にも努め、地域や保育園の行事に参加したり、複合施設全体で行事を催し地域への案内しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で課題となった『事故防止のための取り組み』は事故報告書の様式を変更し、その後の経過を記入できるように改善がされていました。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が自己評価を行い、会議で全職員が意見交換をし、管理者がまとめました。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	利用者や利用者家族、民生委員、自治会長、市職員、包括支援センター職員が参加しており、情報交換の場となっています。利用者の様子やグループホームの行事、取り組みを理解してもらい多様な意見を聞くように心がけています。評価についても報告し、意見を頂き取り入れています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情や相談を受け付ける仕組みを整備し、玄関前に意見箱も設置しています。また、頂いた意見は職員会議に提示しすぐに対応するようにしています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	賽の神、季節のお祭り等の地域の行事に参加しているほか、ホーム全体としての行事についても参加して頂けるよう努めています。また、地元の保育園児が来てくれたり、近くの児童館に訪問し、子供と接する機会を持つなどの対応をしています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	【人としてその人らしく生きる為に】の理念を原点として想い、努めており、その方の人生に寄り添って生きる支援を大切にしています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り、会議等の機会に理念の確認をしています。また、ホームの理念を見やすい場所に掲示して常に意識しているほか、日々のふれあいについて職員と理念を話し合っています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの玄関の見やすい所に理念を掲示したり、地域の方向けの広報を年2回作成して回覧するほか、年4回広報誌を作成しご利用者家族に配布して理念の浸透に努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	賽の神、季節のお祭り等の地域の行事に参加しているほか、ホーム全体としての行事についても参加して頂けるよう努めています。また、地元の保育園児が来てくれたり、近くの児童館に訪問し、子供と接する機会を持つなどの対応をしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、外部評価の結果は会議で報告し改善に努めています。		前回評価の課題に対しての改善計画シートを作成しておらず、評価項目を見たことがない職員もいました。外部評価の内容の周知と改善計画シートの作成による効率的な課題解決を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や利用者家族、民生委員、自治会長、市職員、包括支援センター職員が参加しており、情報交換の場となっています。利用者の様子やグループホームの行事、取り組みを理解してもらい多様な意見を聞くように心がけています。評価についても報告し、意見を頂き取り入れています。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実際、市の窓口相談に行ったり、電話で事情を話し助言を受けています。色々な面で過去には、突然の訪問もあり、会話を重ねることによりお互いに理解し合っています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については採用時に研修を実施するほか、事故研修委員会が主体で身体拘束と虐待に関する研修を実施し、虐待の防止に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や受診の付き添いのため家族が来訪した際に、利用者の状況を報告したり、家族からの相談に応じています。また年4回のホーム便り『てづくり』を送付するほか、変化があった時は個別に文書を作成しお送りしています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談を受け付ける仕組みを整備し、玄関前に意見箱も設置しています。また、頂いた意見は職員会議に提示しすぐに対応するようにしています。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は会議で話したいことをあらかじめ用意して積極的に発言しており、管理者は職員全体の意見を聞きながら運営に反映させています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員を保つ為、人事異動は最小限に抑えるよう努めており、新職員の場合は、先輩職員がマンツーマンで1ヶ月間組んで指導にあたっています。また、職員が替わる際はご家族に広報誌で説明を行い、来所時にあいさつをして不安を与えないように対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	前回の評価の課題を受けてグループホームに合ったマニュアルを3施設合同で作成しました。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部から職員の経験年数に応じた内・外部研修の案内があり、職員の希望に応じて勤務調整を行い、参加できるようにしています。参加後は内部で伝達研修を行っており、法人内で組織されている各種委員会でも活動計画にそって内部研修が行われています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	妙高市の介護保険事業所によるネットワークが組織されており、グループホーム同士の研修会や交流会の活動が行われています。新しく開設されるグループホームの研修生を受け入れお互いに情報交換を行う等、実践的な交流を深めています。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みは管理者がその都度聞くようにしています。また、理事長や法人本部の職員がホームを訪問する機会に直接話を聞いてもらうこともできます。職員間の会食会や娯楽の機会なども設け、職員間で何でも言い合える関係を作り、ストレスを軽減するよう努めています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には管理者と計画作成担当者が利用希望者の自宅へ伺い、アセスメントを行っています。在宅の担当介護支援専門員と相談しながら、希望があれば見学を兼ねお茶のみに来ていただくなどの対応をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として共に支え合い調理、漬物の方法や畑も教わりながら作っているなど介護する・されるだけでなく、共に過ごし支えあう関係づくりをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ゆっくりとして頂けるようにお茶を飲みながら様子を家族に伝えるとともに、家族の利用者に対する思いやこれまでの苦労話などの情報を共有し、共に支えあうように支援しています。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを使用し、日々の会話の中から利用者の思いや意向の把握に努めています。また、家族からも聞き取りを重ね把握に努めています。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホーム入居前の生活状況については、家族や在宅時の担当介護支援専門員から情報を得ています。入居後、馴染みの関係を築きながら徐々にエピソードや特技などについて本人からお聞きしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所、面会時に家族から生活歴、生活行動を考慮して、今一番何が必要としているかを考えてプランに反映しています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化時、定期的に6ヶ月ごとの見直し、3ヶ月ごとの経過観察を実施しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算体制ではないですが、隣接デイサービス看護師と連携し緊急時対応定期的な健康チェックを行い支援しています。また、隣のデイサービスのイベント・レクレーションに参加するなどの対応をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医となっています。受診や通院は基本的には、家族同行の受診となっていますが、緊急時は職員が代行するようにしています。受診後は家族から受診結果を伺い、ホームからも医療機関への情報提供をし、医師から助言を頂くなど日頃から連携を図っています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の過ごし方については、毎月のカンファレンスで意向を確認し職員とご家族で意向を確認し、対応を検討しています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録等は所定の場所で適切に管理されており、個人情報の取り扱いには、注意深く秘密保持に努めています。また職員の研修の機会を多く持ってプライバシー確保の意識を周知徹底するようにしています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態や思い、やりがいのある生活、今までの生活に添った支援をしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ・食器の配膳・座席の案内・お茶の準備・後片付け等を利用者と職員が一緒に行っています。食事も利用者と職員と一緒にとり、食器の位置や食べこぼしなどさりげなくサポートしており、畑で収穫されたものを取り入れて季節感を感じられるような配慮もしています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、気分を損ねないような一部介助をして気持ち良くできるように支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入浴を基本として、本人希望を考慮して、時間も好みに合わせて自由に入浴できるようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作業・調理・掃除・選択など利用者の経験を取り入れ、得意分野を見極め仕事を頼み、感謝の言葉を必ず伝え、喜びのある日々になるよう取り組んでいます。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物、散歩は、日常的に出るよう心がけており、行事計画としてもピクニック会食や紅葉ドライブなど計画的に支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送り時、その日のケアを振り返り自覚し合い身体拘束の発見に努めており、身体拘束にちかい声かけがあった時はすぐに指導しています。また、身体拘束の研修会を事故研修委員会で実施し職員の理解を深めています。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝7時半から夜8時までには鍵をかけておらず自由に出入り出来ます。人の出入りがあるとチャイムが鳴る仕組みになっており、さりげなく職員が見守り声をかけています。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	昨年の課題を受け、事故報告書にはその後の経過を記入する欄を設け事故防止に努めています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年1回消防署から指導に来てもらい、救急法の講習を行っています。また、実践につなげられるよう講習後すぐにミーティングを開き、対応方法を職員間で伝え合って理解を深めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方との合同避難訓練を年1回実施しており、自警消防団の方からも訓練時に協力して頂いています。		非常用の水の確保がされておりました。災害時を想定した検討を行い、必要な物資の確保を行われることを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	認知症が進行する中で、体重減の為栄養士と連携し摂取カロリー、食事量など改善しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の目線を考えて空間づくりを心がけています。家族様と思い出の写真を飾り、いつもいっしょにいるという安心感を持って頂いている方もいます。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、なじみな物を取り入れて頂くように家族にお願いしています。その他は、行事の時に本人好みのプレゼントを飾って頂いたりご家族との写真を飾っています。		